

福彩支援ニュース 第30号

2020.8



発行：福島原発さいたま訴訟を支援する会（略称：福彩支援）

ウェブサイト <http://fukusaishien.com/>

電子メール apply@fukusaishien.com

郵便振替口座番号 00130-7-550500 郵便振替口座名：福彩支援

【連絡先】

吉廣慶子(みさと法律事務所) 341-0024 三郷市三郷1-13-12 MTビル2F みさと法律事務所 tel:048-960-0591 fax:048-960-0592
北浦恵美 tel:04-2943-7578 fax:04-2943-7582

★訴訟についてメールでも随時お知らせしています。配信ご希望の方はapply@fukusaishien.comへご連絡を！

次回期日(第31回)

▶ 専門家証人尋問 辻内琢也氏(早稲田大学教授)

原告側の質問時間が90分、国と東電の質問時間が65分

* 傍聴に参加される方は、
マスクの着用を
おねがいします。

2020年9/2(水)13:30開廷

★傍聴希望の方は、13:10までにさいたま地裁B棟前にお越し下さい。

13:10より傍聴券が配布され、遅れた方は原則として入廷できません。

以降 原告本人尋問 (1回の期日に4名から5名の原告が出廷する予定)

いずれも水曜日：午前10時30分から午後5時まで

(原告1世帯につき1時間ほど。11時半～13時に昼休みが入りますが、午後は休憩は入りません)

9月30日(水) / 11月11日(水) / 12月9日(水)

2021年 1月13日(水) / 2月24日(水) / 3月24日(水)

* 9月以降の期日も、新型コロナウイルスの影響で、傍聴席が3分の1ほどに制限されます。
また原告の親族・知人が傍聴に訪れた際は、優先して傍聴していただくため、場合によっては傍聴できない可能性があることをお含みください。



第30回期日(2020/7/8)報告

福彩支援事務局

いつもご支援をありがとうございます。7月8日の第30回期日の報告です。新型コロナウイルスの再拡大という状況にもかかわらず、17名の方が傍聴にご参加くださいました(コロナ禍で傍聴席は18名が定員)。

7月8日の第30回期日で行われた原告側弁護団の意見陳述は、第29回期日で展開された「段階的規制論」を否定する国側主張の矛盾を重ねて追及する内容でした。原子炉設置の是非が争点となった伊方原発最判

(=最高裁判決)では、原子炉の設置許可処分時の安全審査(前段規制)が問題となりますが、福島原発訴訟では、運転段階の安全審査(後段規制)が問題であり、科学的知見の進展によって新たに想定される危険に即応して具体的な対策を講じるよう適宜適切に事業者を規制する「段階的規制論」が焦点となります(この「段階的規制論」は、最高裁によって認定されているものです)。

国側主張は、性格のまったく異なる2つの規制を意図的に混同し、「許可処分の違法性を認定しない限り、津波対策を講じるよう規制権限を行使する義務は国にはない」と、責任放棄というべき反論を展開しています。さらに国側は、津波の到来を予見できたものの「確

立した知見ではなく、原発事故の発生が切迫していたとはいえない」「非常用電源を建屋で守る対策などを取っても事故は避けられなかった」と国の違法性を否定した2019年8月2日の名古屋地裁判決を引き合いに、自身の責任を否定しています。

しかし、伊方最高裁判決の趣旨は、「万が一にも深刻な災害が起こらないようにする」ため、最新の科学・技術水準への即応が求められる、というものです。原告側弁護団は、伊方最判の趣旨をねじまげ、規制権限の不作为を頬かむりしようとする国の姿勢を、重ねて厳しく追及しました。

閉廷後は、長時間の進行協議が行われ、10月19日に被災地での現地検証が行われることが決定しました。他の原発関連訴訟でも、現地検証が実現した裁判では原告側が勝訴しており、弁護団が現地検証を実現させたのは大きなポイントです。

そして9月2日の辻内琢也・早稲田大学教授による専門家証言。9月30日からほぼ毎月、6回にわたる原告本人尋問を経て、6～7月に結審。そして3ヶ月後の2020年秋に判決が出される、という見通しです。

9/2の専門家証人尋問に、この間、原発事故避難者の精神面のケアに取り組んで来られた早稲田大学人間科学学術院教授で医師の辻内琢也先生が証人に立たれます。先生を中心とした原発避難者支援団体が3月に集計した2019年度原発事故被害アンケート調査(5,925件送付/うち400件を先行集計)によれば、2017年の住宅支援打ち切りも相まって、避難者は転居を繰り返さざるを得ず、転居回数が4～6回の方が52.9%に。7～10回以上転居されている方は実に17.6%にも上ります。また、回答者の43.8%が経済的に困窮し3人に1人が年収200万円未満。重度のうつ・不安障害が疑われる方(K6得点が13点以上の方)が18%に上ります。

辻内先生はこうした状況を「福島型PTSD」と呼び、原発事故の直接の被害だけでなく、構造的な暴力と社会的虐待が追い打ちをかける現状を指摘します。国も県も、帰還しなければすべての援助や補助を打ち切る方針。転居を繰り返す中、不安定な生活条件と「福島から避難している」ということを言えない恐怖が、避難者を追い詰めています。辻内先生は2百数十ページ

におよぶ意見書を作成。「賠償だけでなく謝罪を」という避難者の思いを代弁される見込みです。

原告側弁護団は、2019年以降、国の責任を認めない判決が相次いでいることを念頭に(本号10ページ以下の活動報告を参照)、「巻き返し」の流れが強まっていることを懸念。引き続き「国の不作為」を追及し、気を引き締めて裁判に望むという決意が語られました。

裁判日程が立て込み、コロナ禍も拡大するなか、「福島原発さいたま訴訟を支援する会」の年次総会も、2020年は開催がむずかしくなっています。今年度の方針と活動報告、決算報告を今号に掲載しますので、ご意見・ご質問がある方は、ぜひ事務局宛にお送りください。9月2日の第31回期日の後、報告集会和わせて参加できる方で年次総会を持ちたいと思っています(また同封の振込用紙にて会費の納入をお願いいたします)。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

【次回期日】

★第31回期日 → **9月2日**(水)午後**1時30分**開廷

「公正な判決を求める署名」。コロナ禍の影響もありこの間滞っていましたが、現在、7,884筆(2020年8月1日付)が集まっています。ご協力ください。署名はこちらから。 → <http://fukusaishien.com/archives/549/>

代理人意見陳述

2020年7月8日 福彩訴訟第30回期日

平成26年(ワ)第501号ほか 損害賠償請求事件
原告 29世帯96名
被告 国、東京電力ホールディングス株式会社

令和2年3月25日

さいたま地方裁判所第2民事部合議係 御中

原告ら訴訟代理人

弁護士 吉廣 慶子 外

1 本件の争点について

本件では、経済産業大臣が2002年長期評価に基づく津波予測に基づいて想定される津波が到来すれば原発の安全性を損なうおそれがあったのに、電力事業者に

対して適時・適切に津波対策を講じるよう規制権限を行使しなかったことが国賠法上の違法であるかが争点となっています。原告の主張は、2002年公表された長期評価の知見によれば、福島第一原発が「想定される津波により原子炉の安全性を損なうおそれがある場合」(技術基準省令62号4条1項)に該当し、技術基準に違反する状態であったにもかかわらず、国が技術基準適合命令を発しなかった規制権限不作為が違法であるというものです。その規制権限不行使の違法の判断枠組みとして最判の基準を適用すべきと主張しています。被告国はこれとは異なる枠組みで判断すべきと主張しています。

今回提出した第76準備書面は、下山憲司教授の意見書を紹介しつつ、本件において適用されるべき規制権限の不行使の違法の判断枠組みについての被告国の主張の問題点を論じたものになります。第76準備書面は、第56、58、68、69準備書面に続く内容となりますので、以下、これらで論じた主張にも適宜触れつつ、第76準備書面の概要を述べます。

2 「長期評価」による津波地震の想定によって、福島第一原発が「津波により原子炉の安全性を損なうおそれがある場合」(技術基準省令62号4条1項)に該当するに至ったか否かの判断

被告国は、本件に関する国賠法上の違法性を判断するにあたっては、これまで最高裁が、国に事業者の活動について規制権限を不行使しなかった結果市民が損害を受けた際の国賠請求訴訟で用いられてきた違法性判断枠組みではなく、原子炉の設置に反対する市民が起こした設置許可処分の取消を求める行政訴訟(伊方原発設置許可処分取消訴訟)の判断規範を本件でも参考にすべきとしています。具体的には、i) 審査基準に合理性が認められない場合または、ii) 審査基準への適合性の判断過程に看過し難い過誤、欠落がある場合に限り、国の賠償責任を認めるべきとして、本件でも2段階の判断過程審査基準を適用し、規制庁に広範な裁量が認められるべきと主張しています。

しかし、被告国の主張は誤りです。上記伊方最判(=最高裁判決:以下同)の事案は、原子炉の設置を許可するという行政処分自体の取消を求める行政訴訟(事前審査)です。つまり、未だ周辺住民に損害は生じていないものの、当該原子炉の基本設計の安全性に問題が

あるから当該原子炉の基本設計を安全と判断して設置を許可した国の処分行為を取り消すべき、と言えるかどうか判断対象となる訴訟類型です。

これに対し本件は、国が原子炉の設置を許可したことの妥当性を問題にしているではありません。最高裁は、国が、原子炉の運転段階において、科学的知見の進展によって新たに想定される危険に即応して具体的な対策を講じるよう適時適切に事業者を規制する(後段規制)ことを前提として、設置許可段階では基本設計の安全審査のみで許可処分をなすことを是認しています(段階的規制論)。本件では、設置許可処分後の科学的知見の進展によって明らかになった、長期評価の知見により想定される津波による事故を防止するために、国がなんらの規制をしなかったことの責任が問われている後段規制の不作為の違法に関する事後審です。判断対象は、設置許可段階の基本設計の安全性ではなく、運転段階において行うべき安全対策(詳細設計)の具体的手法(建物や重要設備の水密化、高所設置等)です。

そもそも国賠訴訟と取消訴訟は、判断対象も場面設定も大きく異なる訴訟類型です。これまで最高裁は、規制庁の規制権限不行使の国賠法上の違法性を判断する判例を積み重ねていますが、当該事業の許可処分の適法性にかかる行政訴訟での判断枠組みとパラレルに検討したものではありません。

原子炉の設置許可処分時の安全審査(前段規制)の対象と、運転段階の安全審査(後段規制)の対象は、これまでの原発訴訟において厳然と峻別した議論が蓄積されています。それにもかかわらず、両者を区別せず同一のものであるかのように混合させ、運転段階の後段規制の不作為の違法性が問題となっている本件国賠訴訟において、設置許可処分時の安全審査(前段規制)の適法性審査の判断枠組みを本件で参考にするという被告国の主張は、これまで積み重ねてきた裁判例の考え方を無視したもので、合理性も必然性もありません。

本件同種事案の各地裁判決でも、行政訴訟における判断過程審査方式を採用されていません。その多くは、「長期評価」の知見に基づき津波想定を行えば福島第一原発の敷地高さを超える津波の到来が予見しえたこと、敷地を超えて浸水した場合、原子炉で全交流電源喪失事故が起こる危険性があることを被告らは事故前から認識していたこと、を判示しています。

福島第一原発は事故前から「想定される津波により

原子炉の安全性を損なうおそれがある場合」(技術基準省令62号4条1項)に該当し、これに対する防護措置を採られていなかった以上、技術基準に適合しない状態であったことは明らかです。

3 「津波により原子炉の安全性を損なうおそれがある場合」において、規制権限行使が義務的なものとなるのは、地震想定を基礎づける知見が「通説的見解といえる程度に形成、確立した科学的知見」による場合に限られるか。

次に、技術基準に適合せず、逸脱があったとしても、(経済産業大臣による)技術基準適合命令による権限行使が義務的なものになるのは、事故の想定が確立した通説的見解に基づく場合に限られるという見解の問題点について述べます。

この点、例えば名古屋地裁判決は、遅くとも2006(平成18)年には敷地高さを超える津波の襲来を予見できたとしつつも、その予見の根拠となる津波予測の精度・確度は高くはなく、敷地高さを超える津波の到来は切迫したものではなかったとして、規制行政庁や原子力事業者が投資できる資金や人材等は有限であることを理由として、どのような規制をいつ行うのかは行政庁の専門的裁量に委ねられているなどとして、国の責任を否定しています。本訴訟で被告国は、第18準備書面においてこの判決を大きく引用、紹介しています。

しかし、「敷地高さを超える津波」が襲来した場合、全交流電源喪失となりうることは溢水勉強会での資料などからも当時合理的に推定されていました。敷地高を越える津波の到来は、重大事故に至り得る事象であり、原発の敷地が津波で水没するということは正に、クリフエッジ的な危機です。こうした全交流電源喪失事象を引き起こす敷地高(OP:小名浜湾平均海面+10M)を超える津波を福島第一原発立地地点にもたらす津波地震の発生確率は、長期評価によれば「今後30年以内で6%程度」と、非常に高いものでした。

伊方最判は、「万が一にも深刻な災害が起こらないようにする」ため、最新の科学・技術水準への即応が求められるとしています。巨大な危険を内包する原子炉施設の設置を求める事業者と、その危険な工作物(原子炉)の設置を許可しその安全性を維持すべく規制する国としては、原子炉事故により周辺住民に被害が及ばないように、極めて高度な安全注意義務が求められま

す。規制庁は「事前警戒・予防」の考え方により万が一にも事故が起きないように、科学的知見の進展に即時即応した規制を講じるよう求めた最判の適示は至極当然です。そして、確立した科学的知見(つまり基本的な知見)だけで原子炉を規制するのでは、科学的知見の進展に即時即応した原子炉の安全規制を行っているとは評価できません。原子力安全規制は、単に確立した科学的知見に基づいて安全規制を行うのでは足りず、国は客観的・合理的根拠のある科学的知見に対しても日々目を配り、先取的に安全規制に取り入れるべきことは、法の趣旨から当然です。(なお本件で被告国も、規制の根拠として確立した科学的知見であることが必要とは主張しておらず、長期評価の知見が「審議会等の検証に耐える程度の客観的かつ合理的根拠により裏付けられた知見だったと言えるかどうか」を問題としています。)

なお「長期評価」は被告国が全国の災害対策のために全国から多数の地震学者・津波学者を招聘し、長期間の審議を経て取りまとめている地震予測であり、長期評価の策定は現在まで行われている国の事業です。このように専門家が多数集まり審議の結果取りまとめられ、長期評価として公表された知見には客観性合理性が認められるところ、長期評価に基づき「想定される津波により原子炉の安全性を損なうおそれがある場合」、この技術基準不適合の状態を規制庁が黙認し、規制権限を行使しないという事態は、およそ法が許容するところではありません。

この点名古屋地裁判決は、「投資できる資金や人材が有限であることを理由として、経済産業大臣による規制権限行使が義務的となるのは、重大事故発生の「切迫性」が認められる場合に限ると判示しています。しかし、重大事故の発生が予見しえても、それが切迫するまで放置していてもよいとすれば、危険が切迫してから到来するまでの間に結果回避措置が講じえず、対策を講じられないまま原発事故による被害が発生するのを傍観するしかないことになりかねません。原子炉の安全規制の適法性の判断枠組みに切迫性の要件を容れるのは不当です。

確かに、例えば伝統的な警察規制の適法性審査においては、他の市民の権利侵害発生の「切迫性」が権限行使の適法要件とされています。これは、抽象的危険や治安維持を理由とした警察権の権力行使を許せば、警

察権の過剰行使によって市民の自由が不当に制約されてきた歴史的経緯を踏まえ、これを避けるため求められる判断要素であり、「切迫性」(必要性緊急性相当性)は、国家権力による市民の自由の過剰制限を防止するための要件として、警察権行使の適法性判断との関係においては適正です。しかし、警察行政による市民の権利制限の適法性審査と、原発の安全性維持のために付与された原子力規制庁の規制権限の適法性審査とを平行に論じることはできないのは当然です。電力事業者の経済活動により万が一にも原子炉の重大事故が発生し市民に被害が及ぶことがないよう、国に規制権限を付与した法の趣旨にかんがみれば、原子炉の安全規制の権限不行使の違法性を、警察規制の適法性判断枠組みと同様に判断することは到底できません。

4 長期評価公表後の国の不作為

本件で被告国は、長期評価の公表直後、保安院は国として「長期評価」が「確立した通説ではない」と判断し、規制上「長期評価」を考慮する必要がないと判断したと主張します。しかし、これを示す具体的事情として国が主張するのは、長期評価公表直後、保安院が東電に長期評価の知見を考慮した津波対策を検討することを提案したものの、東電から抵抗を受け、その後東電側から長期評価には異論もあると口頭報告を受け、一係員が「わかりました」と返事をしたと、それだけのエピソードに過ぎません。第56準備書面(20頁～)等でも述べた通り、この係員の発言をもとに被告国が組織として長期評価を考慮しなくてもよいと判断したという結論は導きえず、その他国が組織として長期評価は考慮しないと判断したことを裏付ける証拠は何も提出されていません。むしろ上記エピソードは、長期評価の公表直後、被告国が、長期評価の知見を規制に取り入れることを被告東電に提案したものの、それについて東電から抵抗されたため、そのまま放置していたことを直接的に示すものにすぎず、この国の規制権限不作為が、本件事故の直接の原因となったのです。

裁判所におかれては、万が一にも深刻な災害が起こらないよう、国の原子力安全規制には最新の科学・技術水準への即応が求められるとした伊方最判の趣旨を十分に踏まえ、原子力安全規制法制の趣旨、目的を正しく捉えた判断をなされることを期待いたします。

以上

q • æ ^ æ w < _ t m M o

松浦 麻里沙 ☎ n a j C ^ M h i i A + ☎ , £

1 いつもご支援いただきありがとうございます。弁護団の松浦麻里沙です。

裁判官に原発被害を受けた土地を実際に見てもらうため、現地検証の申立をしていましたが、この度、10月19日に現地進行協議として実施することになりました。

詳しいルートなどはまだ決定していませんが、弁護団側から提案したルートの実際に係る時間などを確認するため、8月3日に下見に行ってきました。今回はその内容をご報告させていただきたいと思います。

2 朝9時に福島駅を出発します。大宮からは新幹線で1時間10分です。おそらく、10月19日の現地進行協議も、福島駅に集合という形になると思われます。

福島駅から1時間ほど東に向かい、飯館村にある原告のお宅を伺いました。ご自宅へ戻ることができず、庭や家の周りには草木が茂っていました。事故から9年以上が経過した現在でも、草が生い茂った場所の線量は高めでした。

さらに30分ほど東へ行き、南相馬市へ行きました。南相馬市役所の付近は人通りもあり、一見普通の街並みです。ただ、「環境省 除去土壌等運搬車」というシートを張り付けたトラックと頻りにすれ違い、原発事故が現在も続いていることを、改めて実感しました。

南相馬市内の原告のお宅に伺いました。家の裏手の草地や玄関横の地面など、放射線量の高い箇所がところどころありました。このような、子どもが走り回ったり、いじって遊んだりする箇所で放射線量が高いと、小さなお子さんを育てる世帯が生活するには不安が感じました。また、近隣のお宅も何軒か見えましたが、戻ってきているお宅は少なく、事故前と比べて、地域の人通りがとても少なくなったそうです。

その後30分ほど南下し、浪江町の原告のお宅に伺いました。建物は既に解体し、土地のみとなっていました。事故前は、整備された区画に家が並ぶ住宅街だったのですが、ほとんどの家が解体され、残っている家は数件で、その数件も解体予定の様子でした。わず

‡b{Ùtx<·`UhX^æÖloMoz_hè‘
“<Ôç³”pb{μí ³”pqo<SM`Tlh
pb{

y•™x^'tÆ<`zÒ?Êwj w]xPtO
TUM‡`h{áp p 1Ý”ÄçŽí +`hqMO
]xPxzfw™<PUpVsMhŠzáp w¼Ý”
´)sîpVsM‡‡â•o`‡Mz1ªUXjh
“zšU<-Xslh“`oM‡`h{Ä,™ <s
Xz nt<Ö'•o`‡lhfOpb{jCÄ,U
sZ•yzãM^ŠpxP•í“z”ÇZ•.,)b
•yiè“t\ÆpVhwtq¥OqzÁæpb{
y\w™xz< Éà-tæX\qts“‡b{ μ
«æ”Çĩ-Ôpwøðt£8Qzú§ì”• >)
÷£`z%aXÒ?Êwz\j'x< Éà-ºt
K”j wSP••M‡`h{ \j'wSPw²p
xzø”->qlh‡‡ËlhÝ6pz Ú «é
³”ÖçÄ-ì)- `‡`h ø w†¶,j<x-ì
0.23Ú «é³”ÖçÄ-ì£ {Ä,™ 9âŽíU&lo
Mo<zø”-w/ ;UÐ“•‡sM„rwLùø
”UK”wpb{jCÄ,wª-`^>zú òa‡
`h{qjqloXi^lhj wM<z\ltR”
wx7™ts”T<`•sMqzqo<u`fOtS
é`oM‡`h{
y‡hz< Éà-wŽpxôMÑ£ïµt“‡•
oÄ^•oMhÑè-ïì¿«w•Uz< Éà-
wªpxÑ£ïµp“‡•”\q<sXú_`'pG
”t”T•oM‡`h{>æ...>ilhÔtU\w
‘Ot!~lo`‡lhÿxz•iwMtxqo<ä
`Mq¥M‡b{

Ü ØÐÊtK”j wSP*%zEP—ilh

Tt'lh srUz\ltEPU æpMh\q>
òa^d‡b{\thX^æw UEæpMhwi
q¥Oqz•“~•sM>Ëjts“‡`h{

y%aXØÐø°pzS©s › “‡`h{S©
xz]p•-çÝwG/® B-1 ñâĩÓæ¯p?S<
Æ›«`h@s^Q®Vfy¯)Mhiv‡`h{
Oræw'Ot Møt¹”µUW^zGVs²ÑU
ÐloM‡b{fwít°-\ ›ü“TZoi,

fw™zGýÊw T'¤ . afw*%•²T
Mz_os“‡`h{¤ . af•²TO“xG
Äâ¿«`Tè'cz-yòUK“‡b{Ñè-ï
ì¿«>uæiÄâ¿«U»›s`oÑ••ÖloM
X7 xzúU-Q”‘Op`h{

fw™xzË,ÊtK”j wSPtOTUM‡`
h{æX‡pw“ªpxz “T'ü0b”b,ow
“U®”ÄpSS~•oM”— ^tyW^•‡b{
\j'wj wSPpxzHw²‡pžµÑ•çÄp
.÷^•oS“z^„ròæU\MÜloM”~Zp
<sMwtz•ØÙXw:<p Ú «é³”Ö

Ü < Éà-tú_'p"t•oM"Ñè-ìl_«

çÄ-ì>Gâ`‡`h {lwÔz²hjU- `h
æp7<ôMø"p`h{
y^'tz JRxløwúpK"÷wÿú•²TM‡
`h{æXMæti æUK"wpbUz\wè"x
†>>æloS"ziUYMhì8tx Xw U_
tRhfoPb{hiz†>>`hwxfwè"T'
÷wÿú*%w^pK"hŠzè"wbY#wSPt
x¶oÑ£ïμUf"^^zÖ•sM'Ot sloM
‡`h{V•MtT<^•hú*%qzÑ£ïμpç
/^•hâ•hPúqw0zU Tlhp b{

f`ozñaHËjCÇÙwμ«æ"Çï-Ôpμ«
æ"Çï-!Zzwøð>dW‡`h{μ«æ"Ç
ï-Ôpxzúwj z w» àwLùç"»\$"
‡b{•x"zT•òæætÚ€î•"æüwø"»V
jæq- b"Opb{wøð<GÄpbUzú§
ì"»`IT"b"lqUGÄiqòà‡`h{
yμ«æ"Çï-Ô>ZhwU 16ì25ü{<_wæ
x4~"pb{KQt w pxz 17ì‡pt4
~"žAUK"wpzj•Or'Mì p`h{²h

jxzf w™tÛ"Áÿï-›`z[ÄtíloVh
wx•™9ìbWp`h{

y\w<_wAL>!Zozq• æ ^wì Â
•"q>> `zKQttæ › Š`‡`h{
y°MpKQt<z xtç"ÄwU|›`oM"‘
Opb{f~?—<z< Éà-•æXwxì U
sMT'²tb,VpK"srw™_>Z`oVoM
‡b{
y8Dtæ~•" æ ^pz\•'w:›é`ùMz
YÜsç"ÄU>‡" ' pb{

D Ôw x‡-‰opæ~•"hŠz ` K
"‡dæUzcì•_¶›b"lqxpV‡dæ {î
a^•‡`h'z~Šo]C ^doMhiVhMq
¥M‡b{
y™q<z]§ ›<^M‡b'Oz'-`XS&
MMh`‡b{

ñ < Ì Á 7 7 M ' M ' G g Š w ì 8 t

yyyyyyyyyyyyyyyyyyyyyy
yy z Û ' çñajC^Mh†iÁ›§ b"qE^-£

yñajC^Mh†iÁxz 2014å6DwH1s8Ô
T' 6åU&jzjCÄ,C\T'xz 9åq4TD{
ís 9D2Ô•™2ì'“•óHÂ 8Ôqs”zH
31sèw8Ô›4Q‡b{
y^Mh†iÁp<M'M'GgŠwì8›4Q‡
h{lw zœæb”π•pwìÁspw •f?w
Á•KQtwQ>sr›•‡Qowz,ás Á›
æloV‡`hUz\•T'xzM'M'qÂ^Št
Ö“‡b{
y‡cxzís 9D2Ôz^ J©p<K“zjCÄ
,Žñclq†É t/“4MzÄlsžī-”Ä›
îªb”\qst“zfwf•wîØ›Ô` Zo
VhK°Võ^æw•óHÂ ðT'•‡“‡b{
bptGæw™_› Z^•oM‡b{
lw ðt“zj wM'wf•wîØz¥µt;
M»TlhzH ••~qžtKlh\Æ› T'
c~”qMOM<&g`h\qwsMz°À wf
•UzræstGVsè¹›t...` ZoM”Tzq
MO\qUì'Tts”p`•O{

yfw™z 11D11 Ô -12D9 Ô -1D13 Ô -2D24
Ô-3D24 ÔzMc•‹•² 10ì 30üT'•™ 5ì
‡pz~î 4ÊT' 5Êwj wM'f•g•Uzx
wf•tmMox' ðt Q”j Š ðU•
‡“‡b{
yf•sîUs^•sM‡‡ 9åU&jz†É›(Q
sX^•oM”f• w...^æw`UTV«^•O
q`oM‡b{®<“hM{Zr<•sMæi{lw
t?t Š'•hMXm<wzÁæ{²h jx>`o
h•oxs“‡dœ{f• wt?tlfz îUK
“‡b{fwt?tÖ› Z”\qp`Tz\•T'
w°Rx™Z‡dœ{
y`éÆRwπpzcìnxv'•h<wqslø`
‡M‡bUze{zO ‡pSMpMhiVzj w
...^æ› `oXi^M{

y‡hz ðsq æ`oz\•‡pclq{Š Z
oVhq•pw æ ^Uîª^•”\qqs“‡`

h{KQíUîMtq›_oz~”^qt<•sM
Áæ^zjCÄ,t'loz!~lo`‡lhÝ~s
r›îòb”‡hqsM;qqs“‡b{

\•'wYæÔzj w...^æqžtz™z‡b‡
b&çcìn›~ntb”~qMO§ b”qq`o
°jG~spÂ›Lhb,Xzq»w...7t] —›
S&MMh`‡b{
yj w...^æq+ç,qžtz~nwcìnT'z
lwKQ›_ loMV‡`•O{
yìÁ IT' 6åqMODÔU&j‡`h{-sw
8ÔwMtzt!~'c ›áæpXi^”§ wqw
...7tŠpt >nZ'•‡b{
rOgzlwYæÔz“°Úw]§ ›úT'S&
MMh`‡b{

KQtt~YsQ>›{Š”zÊxzqO 7,884ÊB
‡loM‡b{èªw 1ª‡pKq—`pb{~Šoz
...7tzÊw] —›S&MMh`‡b{

2020 áS ñ<§ ~áíq wS Œd

Í 2014á6 Dø ñ<iÁH 1s8 ŒtsŠowīq>
 Ęlh&øT'z-â 6DŽñtc• œpwáí
 qqsløM†b{ áx-éÆRwè¹p 9/2 qs
 "†`h{]f•Xi^M{

ñajC^Mh†iÁ,§ b"qīq

- 1 £ 2019 áS Æ^C
- 2 £ q-C ~q- *C
- 3 £ 2020 áS Æ^M

- 2 áS~ñ<§ Æ^M ³øbâSM ›' £
- 1 £ j q+ø,w†M)§Qz%bb"†pqt
- 2 œpMV†b{
- 2 £ KQwº0,¿X;Q"¿CÆ^qBq>æM†b{
- 3 £ j qĚ `oj~§ lvq,%º5`†b{
- 4 £ KQwcìqC Bqt€C`†b{
- swO ›MlzMt !!
- 5 £ q»›!G`šíi>7"†b{

ñajC^Mh†iÁ,§ b"qyp» ø 2020/9/2£
 Eyy- zÜy '
 qyy- °>yjT~ÿy¾
 q- * ²>y»
 áæ•» jÖyy ~'iyY
 ø50;q£ ,ŠyNG~ªòyæë
 !'yyk~' y ó
 ->y)™~²>y]S
 !Ü'!+~!y†i
 b•y

G B D L D B E G E B D K D H E

? B*B	B > B A B B
-< B	KKICHLJ
: B	FFQEE
^ca B	B B J B C J E E
VZ f 2"9& d@> d g B	B B H E G E E
7 B	B B N K L M L

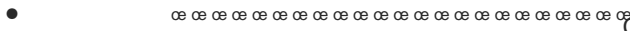
? B*B	B > B A B B
`be_(3fjk hGU GNB	FGICJNM
5 ; f G K G N g B	HC MN N
= : B	B B I K G B B
9& % d + B	IGCKFM
\$: B	J C E E
VZ f 6 01 ,g B	LCH J I
7 B	B B G N C M K J

!Ai N K L M N B B N B M B M G E F Y - < T \ U
 B
 8 Z X R] / T \ U Q
 G E G E F B B B B B B B B .
 B B B B W S d B B
 G E G E F B B B B B B B B

T R Q R 1 Q S P T S V P

GD 6c 06 4* P	# F
+ G P	TT P
7 6 P	X P
?6cl 6 P	T P
K c8 6cc:O6 P	S P
06 P	SYZ P
P[^a P	YTP
P", P	UTP
P P	SSP
P C P	Z P
P F P	Y P
P\$ P	W P
P c c M P	V P
PCB c9/ c&%E P	U P
(c) c!3 P	T P
P c`]b_ cN< cA c J c	P S P
P;2 c@3 c> c.B P'L cc =4	P
4 cl- 4 c 4 c5H4 P	

ñ<ìÁw&çqÆ^C ç qO£



yñajCÄ,p,›)ã~[Ät†É`hf
B 6H316ÊUz qf?›i r“z • ^e{ì
ÁçñajC^Mh†iÁ—t¶•ñ<ìÁ£^Mh†•
Kt ì{

yñ^a•KzGgjC 3|4ø;wá8)`-Š
Ë©{

y^Mh†•K 101øO çì DKQÖ£to
ñ<ìÁ~H 1s±„+æ@ñajC^Mh†iÁ›§
b"qçt¶•ñ<§ £ARBq{Žñz8Ô™tKQw
æÝ^- ÈØC›;Q™@ñ<§ Çá"µ›Cæ{

yñ<ìÁ~H 2íáC ì

yñ<ìÁ~H 3íáC ì

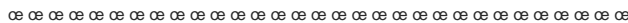
yñ<ìÁ~H s±„+æ
@ápô 15mÒxÝ Ž-q Áb"f?Uzamax 2008á
ì:p@áp0fxÆD†-qÝ `oMh°æ {›zj
+ç, UÖ `~%{0 ›œù“`hf?wOaæU
ì"ˆt{

yñ<ìÁ~H 4íáC ì

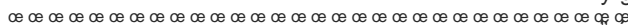
yñajUx †É •wEP§ ›°M\$†
j~“ {§ '›{Šo 87,000 UzÊ{ H~¿»S÷
t†É`oM`H3x° wHÞ›÷O\q›ÚEtz
2019á3D±†p 2á w ÖUYŠ'•”{

yñ<ìÁ~H s±„+æ
à KQÖUi D~T',æm ~tiE

yñ<ìÁ~H s±„+æ
@+æËý~qslh\w8Ôpz qf?UxaŠo±„
p™_à\æM±j 'w Átxg UsMq§Ð{



y2018á±ì:pzñaj]T'w†É U N
Mp22,193 z[Ä]°p 3,508Ê{



yñ<§ Çá"µH 23ø›Cæ

yñajCTsU~iÁ çj : 175 £#¿•

Kx ~f?wyÚ›ÝŠzj 152 t0`o 4/2•^a
w§÷M›Ëa"ç ^e{1xzī1y 54/ §
>Ä~j ,Öx@ 6™üY~qwòÝ{j ~f q<
Çì•{

yñ<ìÁ~H s±„+æ {j +ç,Uz
@½ wTæ¶qw~_rtaWsMáp°AU[›zYp
Tmùg\$qb” ~f?w ÁxæppK”q™_à\{
à % ²tzH 13sj lvq›%5

y³iÙ`çÜ@M† 'sZ•y{ñã%5 {
íÉæµÄt†Šg™^œçGUçqG¶G¶Ä-§£b
>•e^œçÑæ”á »”£ñajC^Mh†iÁj
+ç,UJf{

y•?•KQ>çj : 19 §ápw'_Dó
QxÝ b”ç wyÚ›ÝŠç{

yñ<§ Çá"µH 24ø›Cæ{

yñ<ìÁ~H s±„+æ
j +ç,z 2002átf ^•hSÍw• '@Ö8°
At lof?•wFMVv›æ-`sTlhæp›át{
TÖ ›t'†ÉwipQtùgQUK”\q›à\{
Îw8Ôpzj wx •j<{ØUb,o Z^•”{
à % ²tzH 14sj lvq›%5

yñajzf~z[Äsr 4N]w H~¿»S÷
t4DŽñ~%Eb”f~?—ñãH 1jCÄ,wx †É
H3t0`z HÞw tipb”@ •Ú›e{b”M
›{Š”{

yj —FM•»qz0Áé^afU8Ô†pti
R`sMjCtá8 -Ë©›ZbM ›> {
Ý-?—~°jC 1ø;Uz 2020á3Dtá8 -qs”{

yñ<§ Çá"µH 25ø›Cæ

yñ<ìÁ~H s±„+æ
j +ç, @Ö8°A~t,nV@P0w+µ=sw0
f›èaoM•yz¶?oÖæqjCÄ,xstpvhx
czq Á{à ™tz 2019áSñ<§ áíq

yËy0•KQ> çj 128 §ápw'_Dó
QxÝ `zf?t0`zj 109 t-ÿ 9680^a w§
÷M›Ëa”°Mz wyÚ›q {
ygZöKQÖxQ>g pz x,H 10Ý”Äç›ís
ápxwR'›_pVh<ww±d¿pV”¿Ú• P
x vpk”@~q`hœ~pxsXzjCÄ,wC\U
~-`oMhqxMQsM~qì {†x;?o›P0p
”0fsr› lo<Ä,x†Z'•sTlhq`oz§
OQ›q {

yϕ½T's"Uoù*qUf?ðæ>§Mli
`h@ñajC ÄlÁwQ>tl` {f~•Kto{
f~•Kx⊗†&æ UŠGsápWC\)' pV
"DóQUKlHqxÝŠ'•sM~q`oz 3 ¶»tÁ
Q>• {

yx †É wJ]tmMoð~•h,ÚÚ™w
>æè™îμG U@Ú€wpÄ psMîμ¿q`oxs
TsTé.w~ÝiÄ>\wÔp `í["\qx)`Ç
QhM~qpÄ™Ý>†lhX=MhCt{

yñ<§ Çá"μH 26ø>Cæ

yñ<lÁ~H s±,,+æ
j U⊗îμUqĐt æpM"~srqb"zî6q
TZm•hf? Á•wSæ>à\{

yñ<§ Çá"μH 27ø>Cæ

y••KQ>{qÝw ^,j>ÒQ"1w
š %>ÝŠczj 730Éw,,qærwìQ>@ZhOQ
pzf~?—t0`j 5 tù~do 44ª w ^>Ë
az wyÚxÝŠc{

yñ<lÁ~H s±,,+æ
j +ϕ,zf?"§÷~•hš %1xV~ŠoÆ
GüspK"zŠEiÁp{ŠoM"wxx^ \$äç•
"&`wmTsMÁ wA<•w@š %~pK"z7÷
MwÚ1qxQíUÿs"\q>à\{

yñ<§ Çá"μH 28ø>Cæ

yña~æè"jCB,ìÁçf xf?w^—
j : 52ÉÆñã•Kzf?~ÿ 1203ª w§÷M>
Ëa" {

yK°Võ~ã'>G¶~\$>4Qzè q@Ýá
wç^~w%5>j<b"z~éÆRw!Gpæ~t{Ž
ñzæ•wjC ^lÁp<Ô tGVsè1U{

ys^•KQ>çj : 253 § wyÚ>ÝŠz
^>Ëa" { qf~?—tí1 5290ª ("w ^>
Ëc" {j xÇ\}

yña È,È †É!Ô>°ært JRxIçx
14Ô¶ç6%

yjCÄ,f•t" B,ìÁpz swôKQ
>çf xf?w^—j : 216 §<FôKpw@ñaj
C†É lÁçH 1 £xz>ùQ>tz,o<FôKUí

1ÿ 1/2000ª >Íu^ {j ,Öwã'ž\$^æx@'
ú\$SQ>~qú4{f~?—t0`zÍ dctQ>}>!
ZÖ•" 'O `Ö•{

yÆi ϕ~ðà~jÈàT'w†É t'®—
ôtlV"lÁ{f xf?{f~ôKpQ>xzÝ0i
1>°ùçf~•KÆw 3üw1tn1{

yñ<lÁ~H s±,,+æ
j z x U2%`z7ôKQ>p<ÝŠ'•hjC
w@^Š\$FMæ~q b" ÁwÄl>ât{†hz
îμT',r MfBxĪ.wqÝ>à\}

y†>T6\b;t²ZhO@~Y{íÖæ¿«
~ÝiÄsw@ì8~ã1 ííW_ù" {

â DæyÖ?ÊqGýË>†X< Éà~T'w
†É t0b"EPwÁ^™U4f{ 211H3 9%ÆE
P~w_è`UqlomSM{

yf~?—ñaH°j —C?tpÿQ"Äæ½
çÜsr> %>w{MtmMoz>`™_7Bw8v>
Ö{•óHx¿X ½\$S^æ>&o> b,Vqi {

ySÍzjCÄ,w†É!ÔtmMoAE~hd
y†>dctr†>U|{

yñ<§ Çá"μH 29ø>Cæ

y B§ É¿Äë"«[Äç SSN—E~•'^
Y+çæ£qã'>G¶B•îμ@• "¶Z€tç WIMA
—tÖ•K°Võ-\$§ 2019âS NM†É Ý~Ð*ü
sALt,nMoz°³igG qîμ¿•|o@%V X
jC†É wäÉ>Ú1`h' \$Tmî@\$\$ >{Š
"Al{~ž%p Z{

yjC†É Ý-ìÁQ>çj : 53 §áp
w'_QUKlHqÝŠmm@ôTQUôM<wqx°A^
•oMstlh@~`h)eQ>ÝÝb"\qx Épz
f•w'_DóQw SxÿTlh~srq wyÚ>q
{f?t 490ª w ^È@{
¶ pÿ 30EI\^•oM"% lÁp 16Eèw•KQ
>{Mc<f?t ^>Ëaom" {Oj 12EpðOh
wyÚ>ÝŠstlhwx 5Eè{j xÇ\wM {

yñ<lÁ~H s±,,+æ
j Íwf"•Drülw†¶ù*ç²^FM£qzã8^
Šw†¶ù*ç™^FM£)™\$§t %>zFMVvwÆ
æ~>Yp=`'Oqb" >ât{

yña]g pæ~•oM"zø•pw >T
w6b;>~TŠ"îÄÄÄpz ¥²xôTs`p >

